

科目名	看護薬理学Ⅲ (薬物療法と看護)					DP2 DP4 DP5 DP6	看護高等課程
学年	2 年	分野	専門基礎 薬理	時間数	10 時間	担当 教員	寺坂 和代、他専任教員
科目 概要	臨床看護の場において薬物治療に携わるためには、臨床薬理学の知識と注射・点滴等の与薬管理に関する基礎看護技術を適用させていく必要がある。薬物療法を受ける患者に対して、常に対象にとって何が最善か判断基準を持ち、対象の状態の変化に対応しながら、対象をより良い状態にするための思考や技術をもたなければならない。事例の状況設定から、点滴等の薬物療法の指示がある患者に対して安全な実施についての与薬管理を身に付けられるような内容とした。						
到達 目標	1. 自己学習、技術練習を振り返り、自己の安全な与薬管理技術の課題を明確にすることができる。 2. 患者の状態を踏まえ、医師の指示に基づき安全性を配慮した援助を考えることができる。 3. 患者の援助において、必要な説明を行い、苦痛の軽減に配慮し安楽な援助を考えることができる。 4. 援助目的の達成状況を観察をもとに振り返り、評価し技術の問題点や改善点を見出すことができる。 5. 看護職者が行う与薬管理技術において安全・安楽なケアの必要性やその意義がわかる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1～5	与薬管理統合技術演習		演習の進め方（事例）、ビジョン・ゴール/戦略シート記入、リフレクションノート、ポートフォリオの整理の方法、事前学習等			講義 演習	寺坂 他専任教員
	統合技術演習		グループ演習			講義 演習	
	事例演習		事例演習（疾患・薬物療法指示の異なる事例） パフォーマンス課題（安全な輸液管理と実施） 輸液準備・静脈穿刺（モデル人形）・固定・側管注射・清潔操作・滴下調整等の一連の実施 実施時の留意点、観察点 必要物品） 翼状針・輸液・輸液セット・延長チューブ・テープ・三方活栓等			演習	
評価 基準	演習は、ルーブリック（学習成果物・発表等）をもとに評価し、総合評価が 100 点となる。 この総合評価点で 6 割以上を合格とする。 また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	看護学入門 2 栄養 薬理 （副読本）Pocket Drugs 医学書院 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							